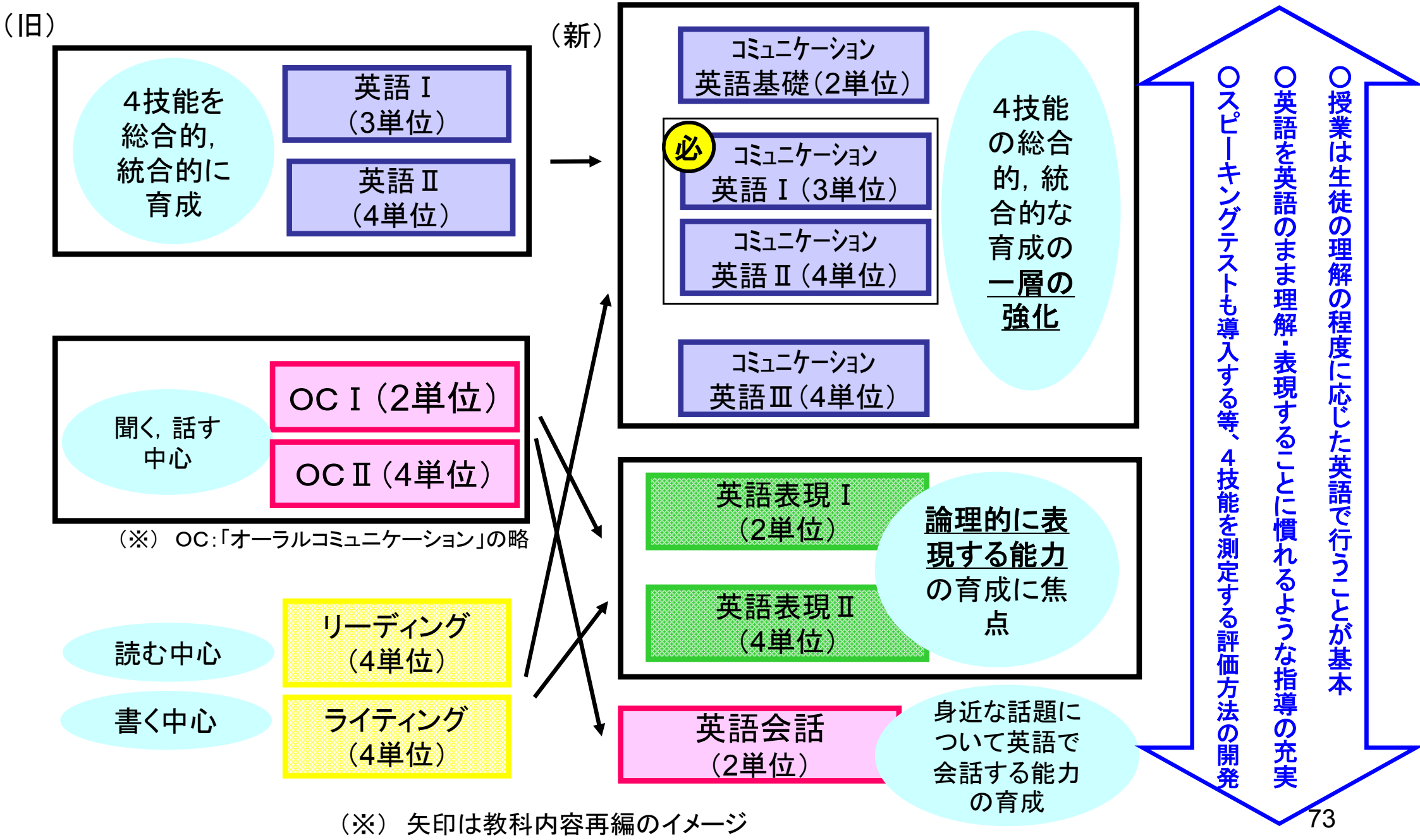
英語教育

英語科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

高等学校学習指導要領「」外国語」の変遷

	昭和52～53年改訂 （昭和57年4月　入学生より実施）	平成元年改訂 （平成6年4月　入学生より実施）	平成10年改訂 （平成15年4月　入学生より実施）	平成20年改訂 （平成25年4月　入学生より実施）
目標	「外国語を理解し、外国語で表現する能力を養うとともに、言語に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて理解を得させる」	「外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める」	「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」	「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」
科目の構成	英語Ⅰ　4 英語Ⅱ　5 英語ⅡA　3 英語ⅡB　3 英語ⅡC　3 ドイツ語 フランス語	英語Ⅰ　4 英語Ⅱ　4 オーラルコミュニケーションA　2 オーラルコミュニケーションB　2 オーラルコミュニケーションC　2 リーディング　4 ライティング　4 ドイツ語 フランス語	オーラルコミュニケーションⅠ　2 オーラルコミュニケーションⅡ　4 （いずれかを必修） 英語Ⅰ　3 英語Ⅱ　4 リーディング　4 ライティング　4 その他の外国語	コミュニケーション英語基礎　2 コミュニケーション英語Ⅰ　3 コミュニケーション英語Ⅱ　4 コミュニケーション英語Ⅲ　4 英語表現Ⅰ　2 英語表現Ⅱ　4 英語会話　2
言語活動	「聞くこと、話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の3領域で構成。	「聞くこと・話すこと」をそれぞれ独立させて、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4領域で構成。	4領域の示し方を改め、相互の有機的な関連を図ったコミュニケーション活動として示す。さらにそれに必要な指導事項も明示。また、言語の使用場面や言語の働きを例示。	4つの領域の言語活動の統合を図るとともに、発信力の向上や、中学校との円滑な接続を図る観点から、科目の構成及び内容等を改善。
言語材料の取扱い	各科目ごとに言語材料を割り当てる。	科目ごとの言語材料の割り当てをはずし、まとめて示す。	学習負担の軽減のため精選。	中学校における指導内容との連携を考慮。
語	英語Ⅰ　400語～500語までの新語 英語Ⅱ　上に加えて600語～700語までの新語 英語ⅡB　400語～700語までの新語→1400語～1900語（中学900語～1050語）	英語Ⅰ　500語程度までの新語 英語Ⅱ　英語Ⅰの語に加えて500語程度までの新語 ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ　英語Ⅰの語に加えて900語までの新語 →最大1900語（中学1000語程度）	英語Ⅰ　400語程度の新語（1単位減のため） 英語Ⅱ　英語Ⅰの語に加えて500語程度までの新語 ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ　英語Ⅰの語に加えて900語までの新語 →最大1800語（中学　900語程度）	コミュニケーション英語Ⅰ400語 コミュニケーション英語Ⅱ700語 コミュニケーション英語Ⅲ700語 コミュニケーション英語基礎 英語表現Ⅰ・Ⅱ 計19単位取ると1800語（中学1200語程度）

現行学習指導要領の高等学校における英語科目の見直し等



（※） OC:「オーラルコミュニケーション」の略

（※） 矢印は教科内容再編のイメージ

英語教育に関する現状と課題について

現状と課題

生徒の英語力・英語学習に対する意識と教員の指導・研修状況等

［生徒］

○英語力･･･ 高３生はＣＥＦＲ Ａ１の上位～Ａ２の下位レベルが多い。特に，「話す」「聞く」の課題が大きい（平成２６年度高校3年生の英語力調査）。

･･･ 「第２期教育振興基本計画」に掲げる高等学校卒業段階での英語力（英検準２級～２級程度）を達成している公立高校3年生は約3割にとどまっている（目標は５０％）。

○英語の学習が好きではないと回答する生徒が多く，学習意欲に課題が見られる。

○４技能を効果的に活用した技能統合型の言語活動が十分ではない。
（特に、聞いたり読んだりしたことに基づいて英語で話し合ったり意見交換をしたりする経験や，ディベートやディスカッションの経験が少ない）

［教員］

○聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動（技能統合型の言語活動）を行っている教員が少ない。

○スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションを行っている教員が少ない。

○教員養成・研修において、上記のような状況を改善する支援策が十分でない。

（参考）グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

2013年12月13日
文部科学省発表

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。
2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め2014年度から逐次改革を推進する。

1．グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

○小学校中学年：活動型・週1～2コマ程度
- コミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導

○小学校高学年：教科型・週3コマ程度
（「モジュール授業」も活用）
- 初歩的な英語の運用能力を養う
- 英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

○中学校
- 身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
- 授業を英語で行うことを基本とする

○高等学校
- 幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う
- 授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化（発表、討論、交渉等）

※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う
※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実（伝統文化・歴史の重視等）

2．新たな英語教育の在り方実現のための体制整備（平成26年度から強力に推進）

○小学校における指導体制強化
- 小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修
- 専科教員の指導力向上
- 小学校学級担任の英語指導力向上
- 研修用映像教材等の開発・提供
- 教員養成課程・採用の改善充実

○中・高等学校における指導体制強化
- 中・高等学校英語教育推進リーダーの養成
- 中・高等学校英語科教員の指導力向上
- 外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証
  ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFLiBT 80点程度等以上の英語力を確保

○外部人材の活用促進
- 外国語指導助手（ALT）の配置拡大、地域人材等の活用促進（ガイドラインの策定等）
- ALT等向けの研修強化・充実

○指導用教材の開発
- 先行実施のための教材整備
- モジュール指導用ICT教材の開発・整備

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上（高校卒業段階で英検2級～準1級、TOEFL iBT57点程度以上等）
→外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証するとともに、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

3．スケジュール（イメージ）

○2014年1月頃　有識者会議設置
○2014～2018年度　指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大
○中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施
○東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面実施

(参考) 高等学校における英語教育の改善の方向①

（「英語教育の在り方に関する有識者会議審議（平成26年9月26日）」報告：抜粋）

今後の方向性

○　各学校が適切に学習到達目標を設定し、これらの資質･能力についての達成状況を明確化できるようにするため、国として、小･中･高等学校において達成を目指すべき教育目標を、より具体的な形で4技能ごとに一貫した指標として示す方向で検討する。

○　小･中･高等学校の連携、中･高等学校の連携などを意識した目標･内容を具体的に検討するとともに、中･高等学校の目標の高度化等の改善を踏まえ、それぞれの段階において言語の使用場面や働きを更に広げた言語活動を行うこととする。

高等学校における改善の方向

○　高等学校段階における英語教育の多様性に対応した目標・内容の設定、及びそれらの高度化を図るとともに、中学校との円滑な接続を図る観点から、次のような改善を図る。

- 幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う。
- 引き続き、授業を英語で行うことを基本とするとともに、言語活動の高度化（発達段階や、生徒の英語力等の状況に応じた発表、討論、交渉等）を図る。
- 例えば、社会的な話題や時事問題等の幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解するとともに適切に伝え、英語を用いて課題解決していく力を育成するコミュニケーション能力を養う。

  例)ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題について課題研究したことを発表したりすることができる。
- 中学校で学習した語彙・表現・文法事項等に意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高める。
- 専門学科等におけるより専門性の高い内容を扱う科目設定等の在り方について検討が必要である。

(略)

○　高等学校でも、現行の学習指導要領に引き続き、授業を英語で行うことを基本とする。その際、その狙いが「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため」であり、また同時に「生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮する」ことを前提としていることを理解することが重要である。

（参考）

◆ 第２期教育振興基本計画（平成25年６月14日閣議決定）　（抜粋）

成果目標５（社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

「社会を生き抜く力」に加えて，卓越した能力※を備え，社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材，社会の各分野を牽引するリーダー，グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材，とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて，実践的な英語力をはじめとする語学力の向上，海外留学者数の飛躍的な増加，世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例：国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性，チャレンジ精神，異文化理解，日本人としてのアイデンティティ，創造性など

【成果指標】

＜グローバル人材関係＞

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検３級程度以上，高等学校卒業段階：英検準２級程度～２級程度以上）を達成した中高校生の割合５０％

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準１級，ＴＯＥＦＬ ｉＢＴ８０点，ＴＯＥＩＣ７３０点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：５０％，高等学校：７５％）

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について　報告

（H26年9月26日　英語教育の在り方に関する有識者会議）　（抜粋）

生徒の英語力の目標については、「第２期教育振興基本計画」（平成25 年6 月14日閣議決定）において、中学校卒業段階で英検３級程度以上、高等学校卒業段階で英検準２級程度～２級程度以上を達成した中高生の割合を５０％とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の４技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検２級から準１級、ＴＯＥＦＬ ｉＢＴ60 点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

英語教育に関する現状と課題について

○英語科目の開設状況

		普通科				専門学科				総合学科
		1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
外国語	コミュニケーション英語基礎	5.0%	0.0%	0.0%	0.6%	13.2%	0.2%	0.2%	0.3%	6.1%
	コミュニケーション英語Ⅰ	90.2%	4.5%	1.6%	6.8%	81.9%	26.7%	9.3%	1.7%	100%
	コミュニケーション英語Ⅱ	0.8%	89.5%	23.1%	6.8%	0.1%	65.7%	52.4%	1.5%	94.9%
	コミュニケーション英語Ⅲ	0.0%	0.6%	77.2%	6.3%	0.0%	0.2%	15.1%	0.7%	70.0%
	英語表現Ⅰ	64.3%	18.1%	13.8%	6.8%	10.6%	18.5%	29.5%	1.1%	90.2%
	英語表現Ⅱ	0.5%	56.6%	65.1%	5.8%	0.3%	7.1%	11.6%	0.8%	55.2%
	英語会話	5.5%	6.3%	19.7%	2.6%	3.4%	10.5%	20.1%	0.6%	57.9%

出典「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」

○センター試験受験（本試験）状況

区分	英語（筆記）	英語（リスニング）
受験者数	523,354人	516,428人
科目選択率	98.7%	97.4%

出典「平成27年度大学入試センター試験 実施結果の概要」（独立行政法人大学入試センター）

英語教育に関する現状と課題について

生徒・教員の英語力及び指導状況について

■生徒の英語力について、目標としている英語力を達成している生徒は公立中学3年生で**約35%**、公立高校3年生で**約32%**。

〇中学校卒業段階：初歩的な英語を聞いたり読んだりして話し手や書き手の意向などを理解したり、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話したり書いたりすることができる。**（英検であれば3級程度以上）**

〇高等学校卒業段階：英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。**（英検であれば準2級～2級程度以上）**

＊第２期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

■英語教員の英語力についても、目標を達成している教員は公立中・高それぞれ**約29%**及び**約55%**。

〇生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成するため、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることができる。**（英検準１級以上、TOEFLのPBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上またはTOEIC730点以上）**

＊第２期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準１級，ＴＯＥＦＬ ｉＢＴ８０点，ＴＯＥＩＣ７３０点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：50%，高等学校：75%）

■生徒が英語を用いた言語活動を授業の半分以上行っている割合は、公立中学校3年生で**約48%**、公立高校（コミュニケーション英語Ⅰ）で**約43%**。

■授業中、発話を半分以上英語で行っている英語教員は、公立中学校3年生担当で**約47%**、公立高校（コミュニケーション英語Ⅰ）担当で**約48%**。

■「CAN－DOリスト」により学習到達目標を設定している学校は、公立中・高それぞれ**約31%**及び**約58%**。※「CAN－DOリスト」とは、英語を使って実際にどのようなことができるようになるのか、その能力を記述したものを指す。

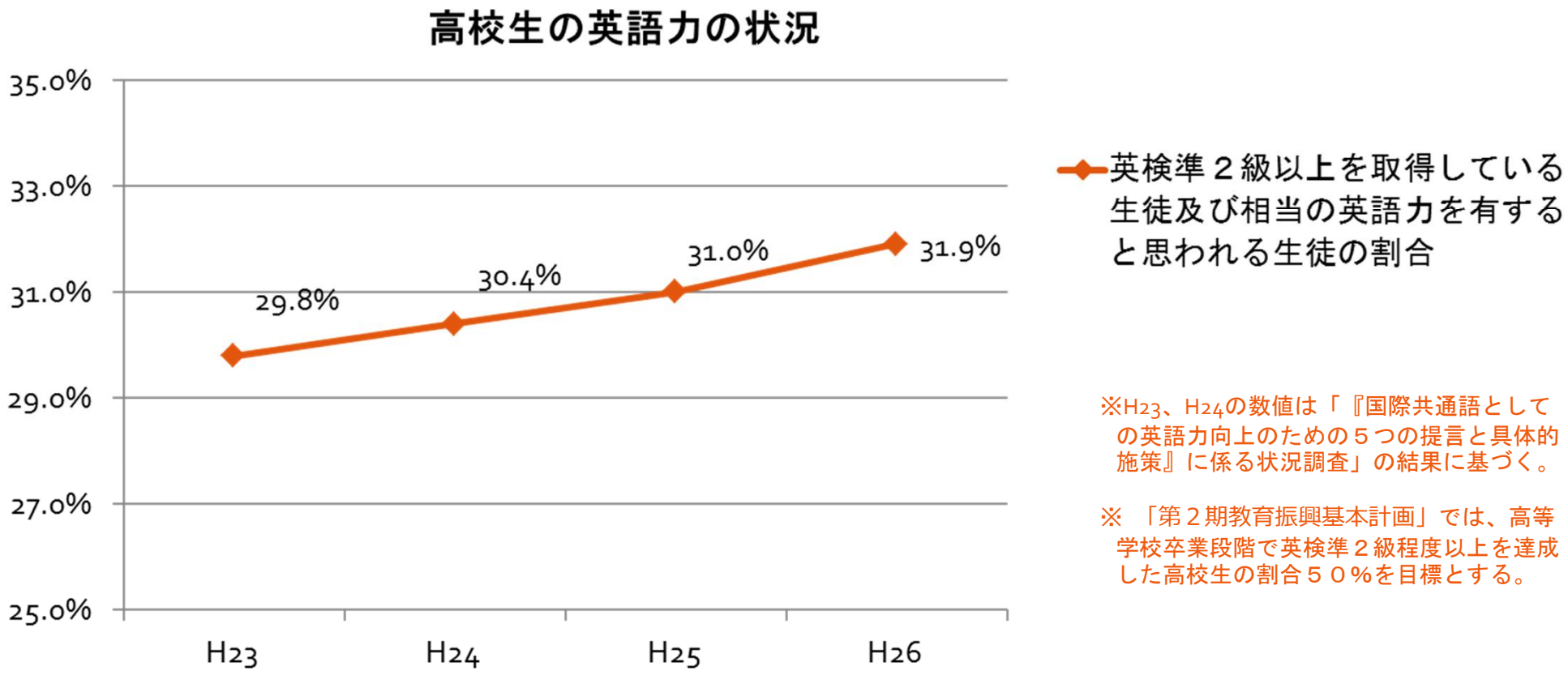
（出典）文部科学省「平成26年度　英語教育実施状況調査」

英語教育に関する現状と課題について

高校生の英語力の推移

○　高等学校第3学年に所属している生徒のうち、英検準2級以上を取得している生徒は11.1%で、平成25年度の11.0%から0.1ポイント上昇している。
○　英検準2級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は20.9%で、平成25年度の20.0%から0.9ポイント上昇している 。
○　両者を合わせると31.9%となり、平成25年度の31.0%から0.9ポイント上昇している。

出典「平成26年度英語教育実施状況調査」



※H23、H24の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための５つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果に基づく。

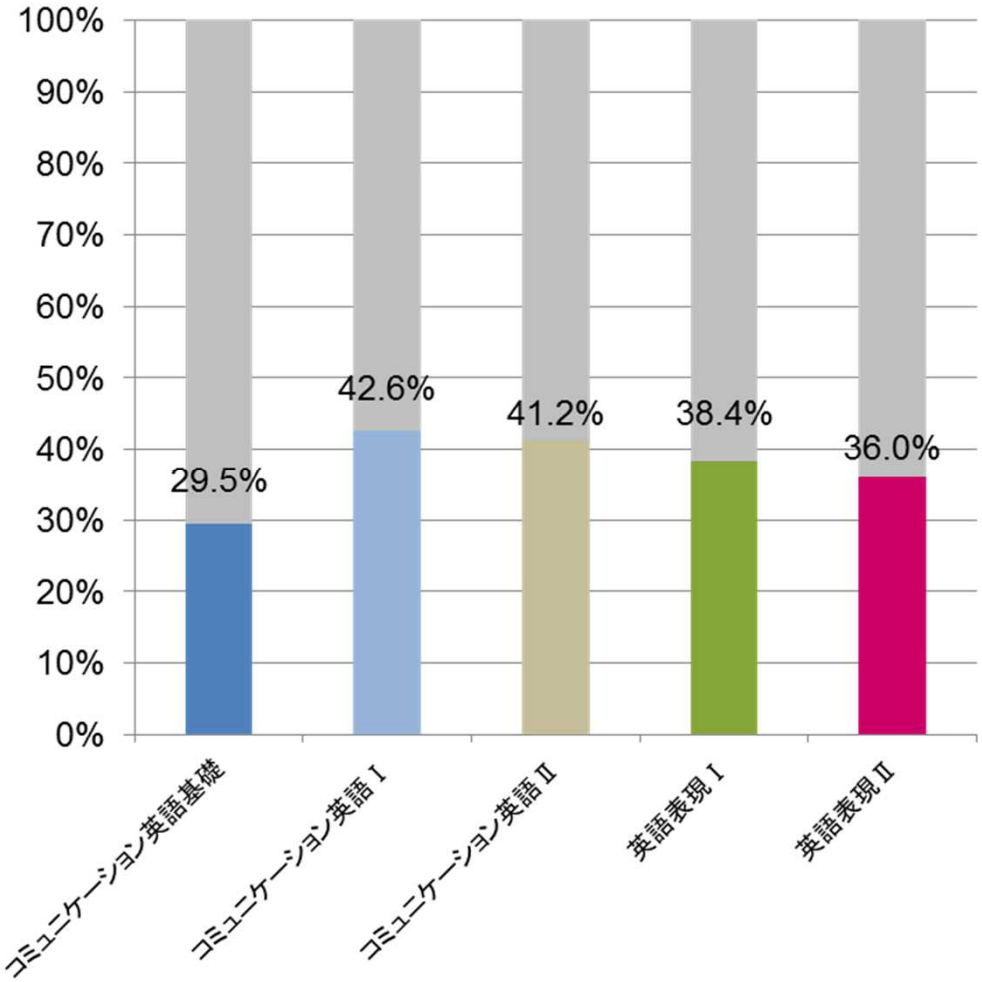
※　「第２期教育振興基本計画」では、高等学校卒業段階で英検準２級程度以上を達成した高校生の割合５０%を目標とする。

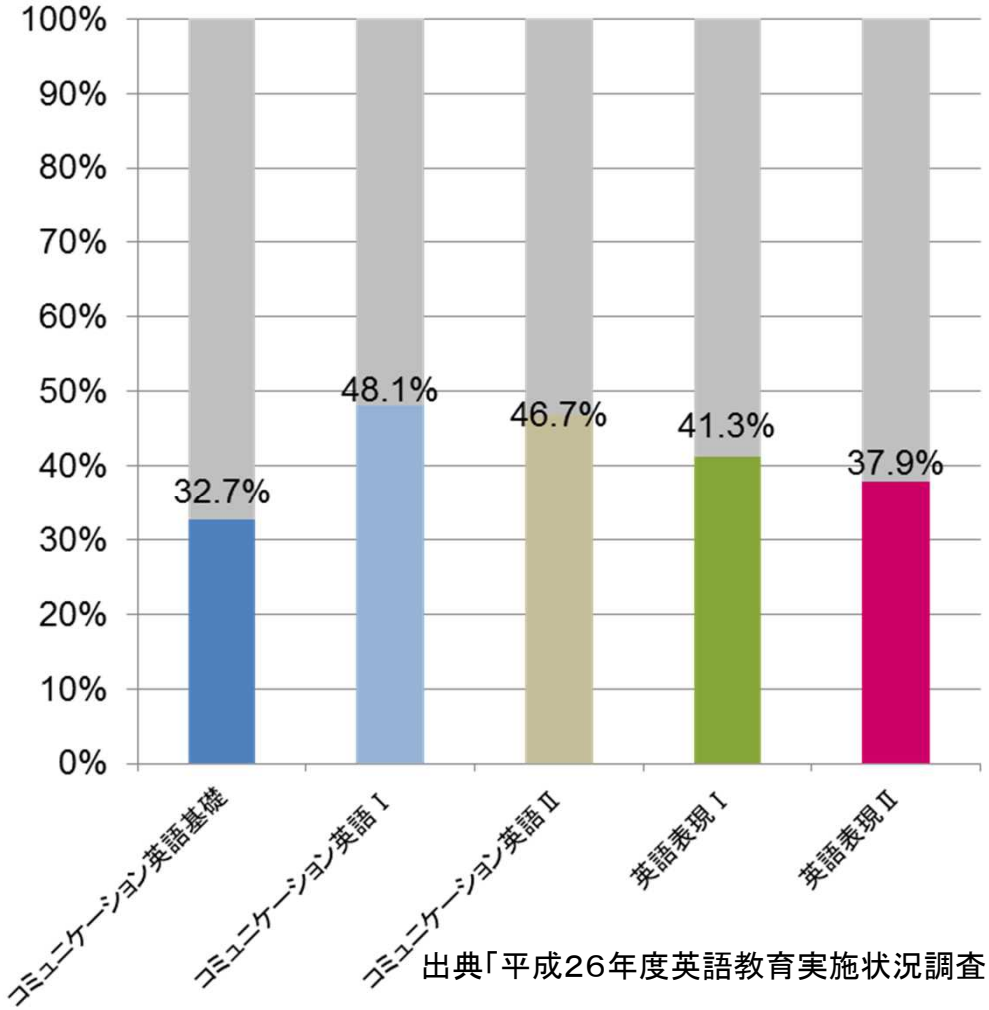
英語教育に関する現状と課題について

生徒・教員の英語力及び指導状況について

生徒が英語を用いた言語活動を授業の半分以上行っている割合は、公立中学校3年生で**約48%**、公立高校（コミュニケーション英語Ⅰ）で**約43%**。

授業中、発話を半分以上英語で行っている英語教員は、公立中学校3年生担当で**約47%**、公立高校（コミュニケーション英語Ⅰ）担当で**約48%**。



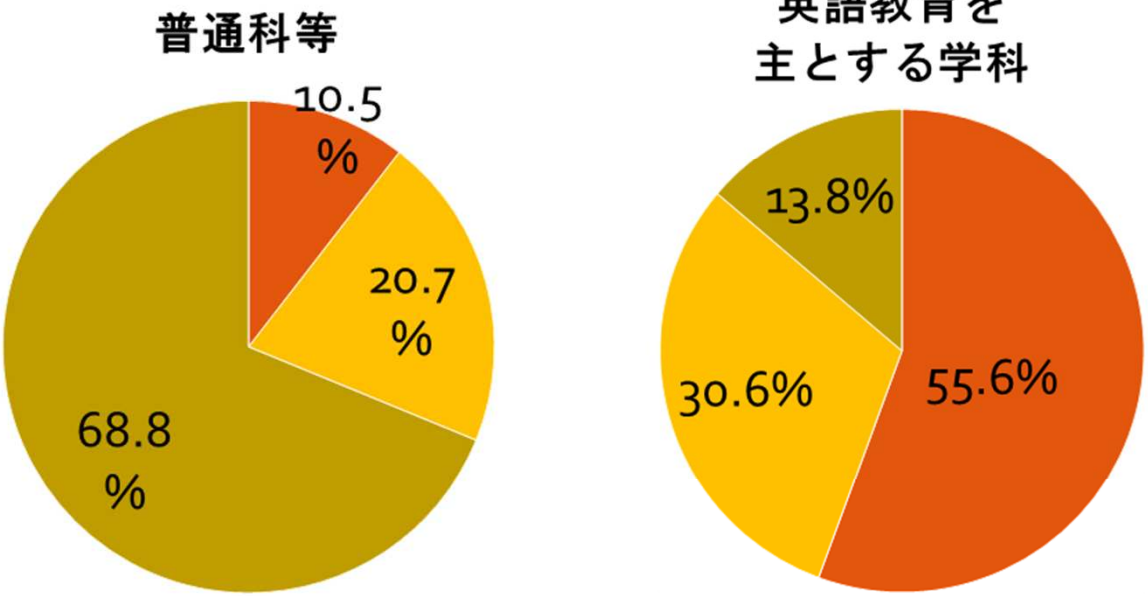


出典「平成26年度英語教育実施状況調査」

英語教育に関する現状と課題について

普通科と英語教育を主とする学科の違い

【生徒の英語力】



■ 英検準2級以上を有する生徒
■ 英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒
■ それ以外

平成24年度の調査※では、英検準2級を有する生徒の割合は、普通科等で10.0%、英語教育を主とする学科で58.8%。英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は、普通科等で20.4%、英語教育を主とする学科で23.2%。
※『国際共通語としての英語力向上のための５つの提言と具体的施策』に係る状況調査

【授業における取組】

出典「平成26年度英語教育実施状況調査」

「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の状況	普通科等	英語教育を主とする学科
授業中、半分以上の時間、生徒の英語による言語活動を行っている英語担当教員の割合	42.6%	67.1%
授業中、半分以上の時間、英語による発話を行っている英語担当教員の割合	48.1%	68.3%

平成26年度　英語力調査（高校3年生）結果の概要

テスト結果と質問紙の分析及び今後の「改善の方向性」のポイント

［総論］

４技能全てにおいて課題があるとともに、特に「書くこと」「話すこと」について**課題が大きい**。

→ 生徒の英語力について特に「書く」「話す」が課題

１．英語学習に対する生徒の意識

→ 学習意欲に課題

<テスト結果と質問紙の分析>

○生徒の英語学習に対する意識①

・英語が**好きではないとの回答が半数を上回る。**　特にA1レベルにおいて顕著。

・**テストスコアが高いほど、**英語学習は好きと回答する**生徒の割合が高い。**

P.17参照

○現在の英語力と将来の英語使用のイメージ②

・現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、**テストスコアが高いほど、**「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」「大学で自分が専攻する学問を学べるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い。**

〈１．の改善の方向性〉

⇨　生徒が**「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、**主体的に学ぶ意欲・態度の育成を含めた**具体的な指標形式の目標の設定**し、生徒が達成感を得られるようにする。併せて、**主体的な学びにつながる学習・指導方法（アクティブ・ラーニング）、及び評価方法の在り方を検討・改善**。

→ 特に「話す」「書く」言語活動が十分でない

２．４技能を活用した言語活動に対する生徒の意識

P.18,19参照

<テスト結果と質問紙の分析>

○４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」「聞くこと」①

・英語を読んだり聞いたりして、**概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る。**
（合計：リーディング67.2%、リスニング58.2%）

・「読むこと」「話すこと」の**テストスコアが高いほど、**授業において「概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

○４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」②

・聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした**経験が少ない**（合計：35.2%）。

・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

○４技能を通じた言語活動に関する生徒の取組状況「話すこと」③

・英語でスピーチやプレゼンテーションをした**経験が少ない**（合計：22.9%）。

・「話すこと」の**テストスコアが高いほど、**授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

○言語活動に対する生徒の意識：「聞いたり読んだりしたことについて書くこと」（２つ以上の技能統合型）

・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした**経験が少ない**（合計：38.7%）。

・「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた**生徒の割合が高い**。

〈上記２．の改善の方向性〉

⇨　基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や、時事問題や社会的な話題など幅広い話題について**「発表・討論・交渉」などの言語活動を豊富に体験**させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする**総合的なコミュニケーション能力を高める**必要がある。

⇨　**あわせて**「聞いて書く」など複数技能を統合して使う活動を通して、生徒が**実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協同的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法（アクティブ・ラーニング）や評価**を行うことが必要。

3．４技能を活用した言語活動に対する教員の意識

技能統合型の言語活動・指導が十分でない

P.20参照

〈質問紙の分析〉

○授業における言語活動の指導①

＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動＞

・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員（合計：33.0%）、書く活動を行っている教員(合計：39.7%）が**少ない**。

○授業における言語活動の指導②

＜技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション＞

・スピーチやプレゼンテーションを行っている**教員が少ない**(合計：28.0%)

・ディベートやディスカッションを行っている**教員が非常に少ない**(合計：6.9%)

〈３．の改善の方向性〉

⇨　**教員養成・研修において、１．２の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。**

・ペア・ワーク、グループ活動などを含めた学習・指導方法、時事問題や社会的な話題などについて「発表・討論・交渉」などを行う模擬授業、「話す」「書く」の能力を測るパフォーマンステスト等を強化

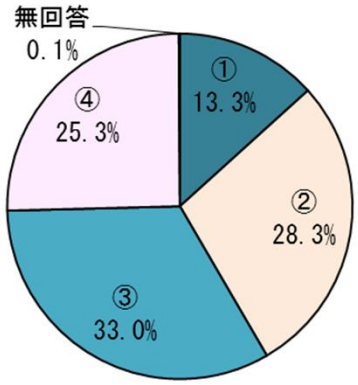
1．英語学習に対する生徒の意識

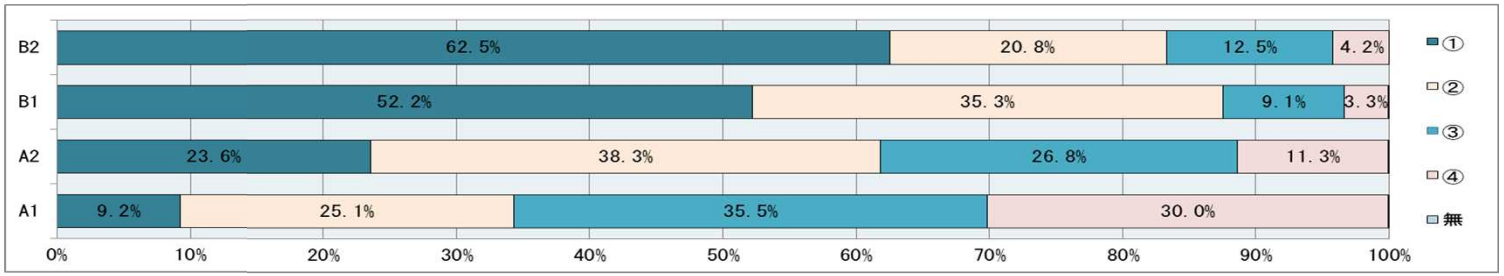
生徒の英語学習に対する意識①

○英語が好きではない（選択肢③④）との回答が半数を上回る。特にA1レベルにおいて顕著（公立）。

問　英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を１つ選んでください。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」の試験結果とのクロス。

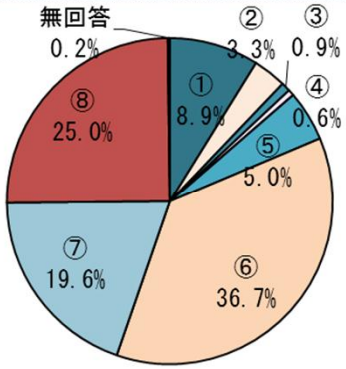
現在の英語力と将来の英語使用のイメージ②

○現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる（公立）。

「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、B2、Ｂ１など試験結果が高いほど、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「大学で自分が専攻する学問を学べるようになりたい」（選択肢②）といった回答が多い。

問　どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを１つ選んでください。

①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい　②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい　③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい　④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい　⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい　⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい　⑦大学入試に対応できる力をつけたい　⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



※「読むこと」の試験結果とのクロス。

２．４技能の言語活動に対する生徒の意識

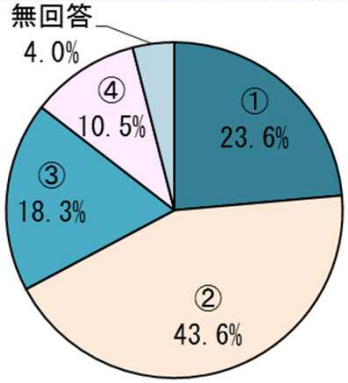
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」「聞くこと」①

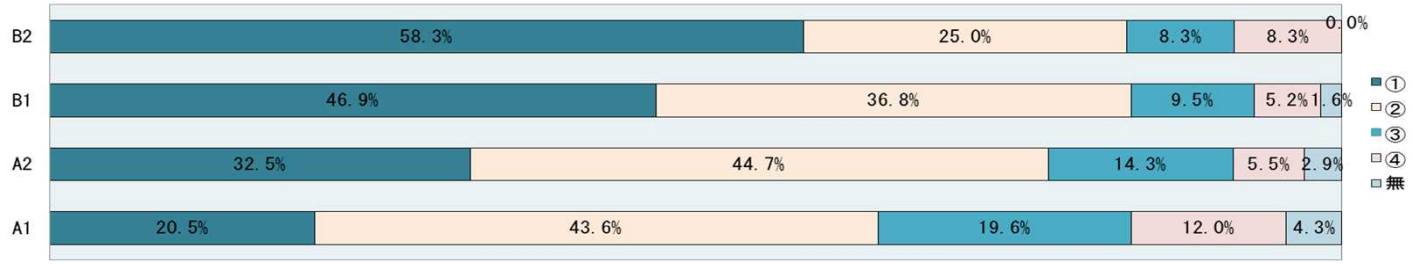
○英語を読んだり聞いたりして、概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る（選択肢①②合計：リーディング67.2%、リスニング58.2%（リスニングの図は略））

○「読むこと」「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②）生徒の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

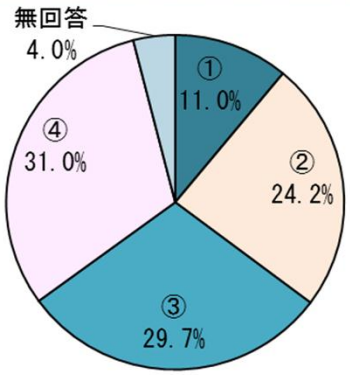
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」②

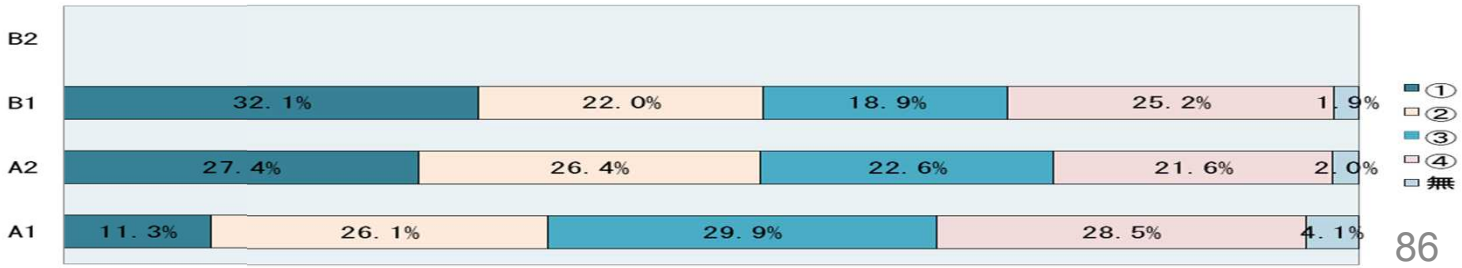
○聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない（選択肢①②合計：35.2%）。

○「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」（選択肢①②）生徒の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「話すこと」のテスト結果とのクロス

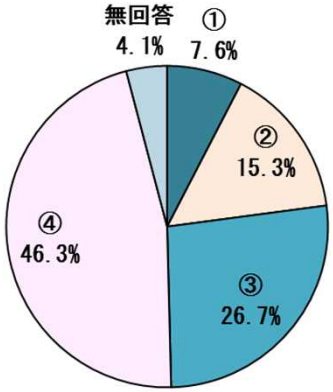
４技能の言語活動に対する生徒の意識

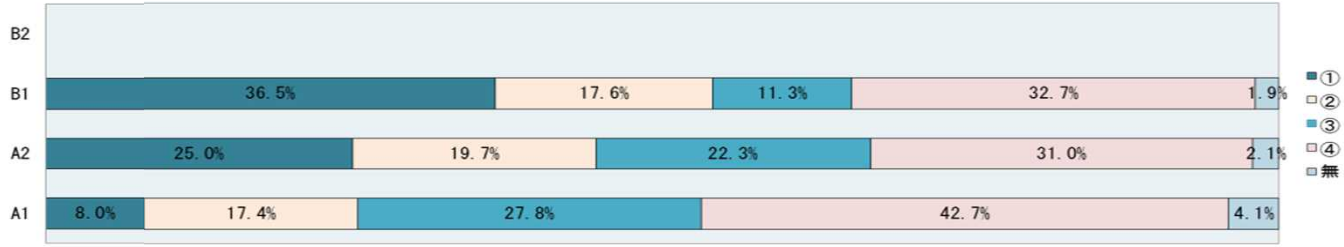
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」③

○英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない（選択肢①②合計：22.9%）。
○「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒（選択肢①②）の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





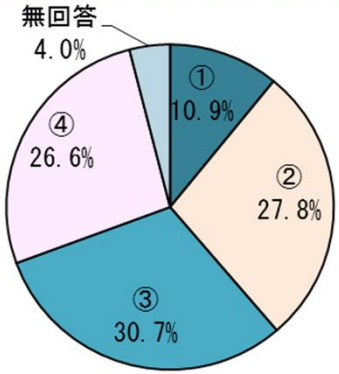
※「話すこと」のテスト結果とのクロス。

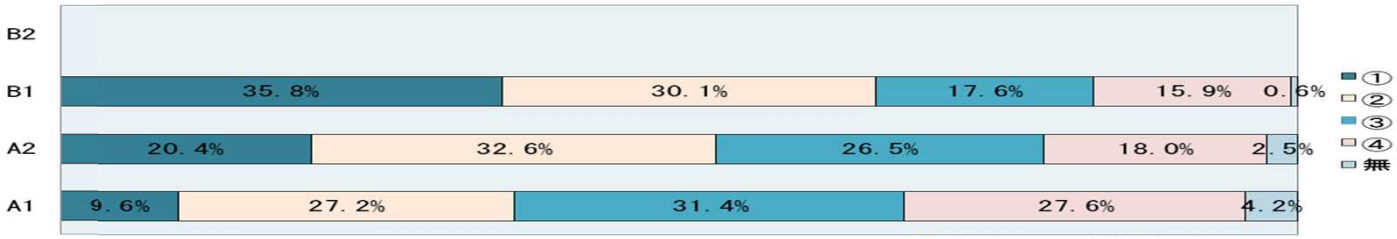
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識④〈技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと〉

○聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした経験が少ない（選択肢①②合計：38.7%）。
○「書くこと」の試験結果が高い生徒ほど、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた割合（選択肢①及び②）が高い(公立)。

問　第２学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





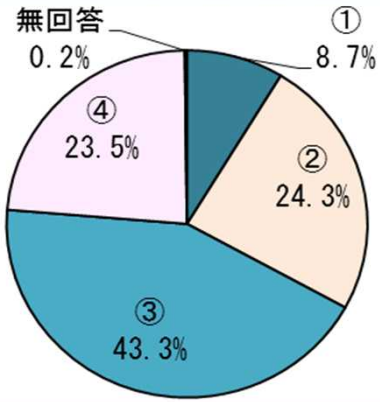
※「書くこと」のテスト結果とのクロス。

３．授業における言語活動の指導に対する教員の意識

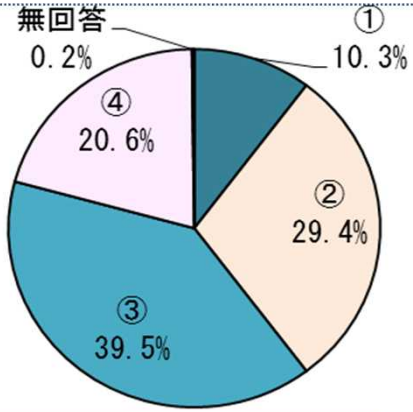
授業における言語活動の指導① <技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動>

○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員（選択肢①②の合計：33.0%）、書く活動を行っている教員(選択肢①②合計：39.7%）が少ない（公立）。

問　聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。



問　聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

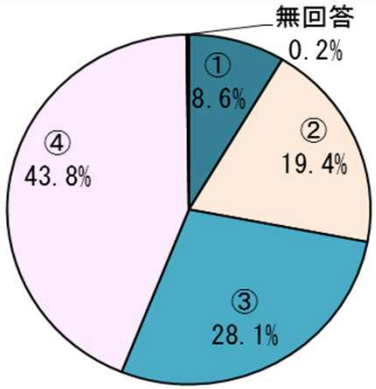


①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない

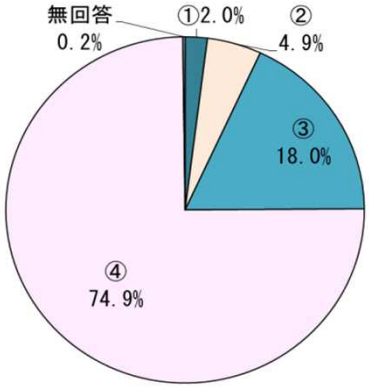
授業における言語活動の指導② <技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション>

○スピーチやプレゼンテーションを行っている教員が少ない(選択肢①②合計：28.0%)。
○ディベートやディスカッションを行っている教員が非常に少ない(選択肢①②合計：6.9%)。(公立)

問　スピーチやプレゼンテーションを行っていますか　。



問　ディベートやディスカッションを行っていますか。



①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない

学校の取組紹介①
思考力・表現力・表現力を伸ばす指導でコミュニケーション・ツールとしての英語力を鍛える

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点，学科名はⅠ～Ⅲで表示）

学級数・生徒数	Ⅰ学科／第3学年…2学級（83 人）、Ⅱ学科・Ⅲ学科／第3学年…4学級（168 人）
ALT活用状況	常勤のALTが1人。3年次はライティングの授業で、授業の4回に1回の割合で入る
備考	・**スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定**

2　テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ **４技能全体が全国平均を上回る。**

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	201.6	203.4	81.1	10.9
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ 生徒の英語学習の目的意識が高い。

- 「英語の学習は好きか」という質問に**７割以上　(全国は約４割)**が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答。
- 将来の英語使用のイメージは、「国際社会で活躍できるようになりたい」、「大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」との回答が**４９.６%(全国は１２.２%)**
- 「聞いたり読んだりしたこと」について、「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**７５．５%(全国は３５.２%)**と高い。

4　特色ある授業内の取組

①教科書の英文に触れる機会を増やし、使える英語の習得につなげる

教科書の英文を**何度も聞いたり読んだり**する機会を与えることでコミュニケーション能力の向上につなげるとともに，様々な**ペア・ワークに取り組むなど工夫**を凝らし、生徒の知的好奇心を喚起。

②思考力や表現力を伸ばす課題の設定

答えが一つではない問いを考えることで、より深い読みを促すとともに、生徒同士との**ペア・ワーク**などを通して、**多様なものの見方があることを体感**させる。

課題文を読んでエッセイを書くなど自分の考え・意見をアウトプットする機会が多い。

③自信を持ってコミュニケーションを図れる雰囲気づくり

自分の英語力に自信が持てず、抵抗を感じる生徒も少なくないため、生徒の知的好奇心を喚起するとともに、話しやすい教室の雰囲気づくりを意識。

（英語の授業でディベートを実施している様子）

（英語プレゼーテンションコンテストの様子）

特色ある授業外の取組

○生徒たちが自ら行き先を決める海外研修

１年次に海外研修を実施。生徒は研修内容（学校や企業訪問、インタビューなど）を計画し、現地の情報を調べて共有。

（海外研修の様子）

学校の取組紹介②：独自教材と共通の評価方法を用いて４技能を総合的に伸ばす

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点）

学級数・生徒数	12 学級（438 人）／第3学年…4学級（149 人）
ALT活用状況	常勤のALT が1人。1・2年次は各クラス週1回、3年次は各クラス2週間に1回。
備考	・独自教材を作成し，生徒の英語力に合った興味・関心を喚起する教材の利用と課題の設定を工夫・数年前まで生徒指導上の困難を抱えていた学校

2　テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ テストスコアは平均をやや下回るも４技能にわたる言語活動が多く、バランスよく育成

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	113.2	108.2	16.1	3.0
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ 高３でもスピーチやプレゼンテーションなどの言語活動の実施率が高い。

◈「聞いたり読んだりしたこと」について、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**７６．２%(全国は３５.２%)**と高い。

◈　英語でのスピーチやプレゼンテーションの実施率は、第3学年で**７０%強と全国平均(２２．９%)を大きく上回っている**。

◈　生徒は言語活動主体の授業に好印象を抱いており、「英語での会話が楽しいので時間をもっと増やして欲しい」といった声が寄せられる。英語を話すことに対する抵抗感もなくなりつつあり、教員にも気軽に英語で話しかけてくる生徒が多くなった。

4　特色ある授業内の取組

①英語を使う素地をつくる「スモール・カンバセーション」

毎時間、冒頭10分間で、**生徒同士でペア**となり、初歩的な英語によるQ＆A形式の会話を繰り返し行う。教科書の内容に関わる質問を盛り込み、学習事項の理解や定着を促す。

②英語での授業を徹底し、グループ単位の「スモール・プレゼンテーション」を多く取り入れる

扱うテーマに対する興味を喚起してから音声を聞き、いくつかの設問によって概要把握ができているかを確認。その上で、教科書本文の内容を図式化して構造的に理解し、総括となる課題（「ゴール・アクティビティ」）を与え、**長めの英作文やグループでの発表（スモール・プレゼンテーション）**などに取り組ませる。

③共通の評価項目で、スピーキング、リスニング、ライティングを評価

スピーキングテストでは**ペアで行う会話のテスト**や、教員と対面式の**インタビューテスト**を実施。ライティングテストは、定期考査のなかでパラグラフ・ライティングを実施。**同一の評価項目・評価方法**を用いることで、教員間で評価の差が出ないようにしている。

特色ある授業外の取組

〇スピーチコンテストへの出場

県主催のスピーチコンテストに参加し、H25年度には県大会への出場。
敗退したが、次年度へのモチベーションに繋がった。

（スモール・カンバセーションの様子）

学校の取組紹介③：CAN-DO リストに基づいた４技能統合型の授業を推進

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点）

学級数・生徒数	15 学級（548 人）／第3学年…5学級（196 人）
ALT活用状況	ALT は1人で、週4日勤務。授業は第1・2学年の全クラスでそれぞれ週1回担当
備考	・生徒の学習意欲向上を重視した学習到達目標（CAN－DOリスト）の設定・評価の工夫

2テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ ４技能の言語活動の割合が高く、ライティング、スピーキング力は全国平均の２倍以上。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	137.2	134.6	54.8	8.8
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ 「聞く，読む」→「話す，書く」の統合型の言語活動が多い。

◈「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりする活動」**７９．３％ (全国では３５.２％)**、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」**７８．２％ (全国平均３８．７％)** はいずれも高い割合で実施。

4　特色ある授業内の取組

①学習到達目標－CAN-DOリストに基づいた授業設計で、教員間及び教員・生徒同士で目標を共有

CAN-DOリストにより，教員間で指導・評価の方向を共有するとともに，生徒は自分が何ができるようになったのかや課題は何であるのかを可視化、教員間で指導・評価の方向を共有。

②毎時間ペア・ワークを行い、実際の場面で使えるスピーキング力を育成

授業ではほぼ毎時間、ウォームアップとして、既習の文法事項を活用した**ペア・ワークを行っている。**文法事項を単に暗記させるのではなく、実際のコミュニケーションの中で当該文法事項を使うことを大切にしている。

③書いた文章を生徒相互で読み合うことによる読み手を意識したライティング活動

ライティングでは、授業の2回に1回は、「登場人物にEメールを書く」など**まとまりのある文章を書く**。
完成した文章はペアやグループで相互に読み合うことで、読み手が理解しやすいように文章を書くことを心がけている。また、スピーキングテストと同時に**エッセイテスト**などにおいて**ライティングの評価**を行い、地域の英作文コンテストに向けた校内予選を兼ねている。

特色ある授業外の取組

英字新聞の発行、スピーチコンテスト等への積極的な出場

英字新聞発行のため生徒が記者として記事を書いたり、生徒の寄稿を受け付け2、3か月に1回発行し、生徒全員に配付。また、英作文コンテストやスピーチコンテスト、自治体や企業が主催する短期海外研修プログラムにも、多くの生徒が参加を希望。

（「すごろくゲーム」形式でりテリング（再話））

（1対1の「お見合い回転ずし」の体形でスピーチ）

英語教育に関する現状と課題について

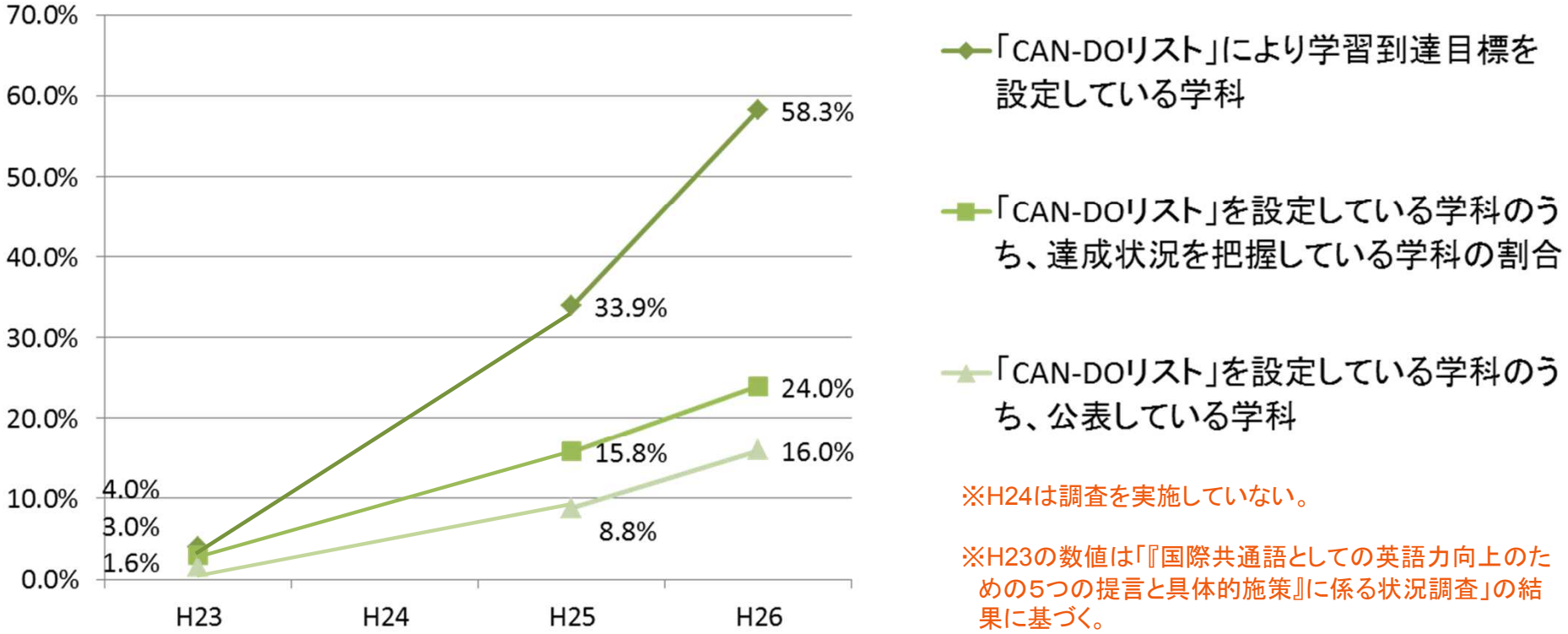
「CAN-DOリスト」の設定状況

○　「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学科は58.3%で、平成23年度の4.0%から54.3ポイント上昇、平成25年度の33.9%から24.4ポイント上昇している。

○　「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学科のうち、24.0%の学科では設定した学習到達目標の達成状況を把握しており，平成23年度の3.0%から21.0ポイント上昇、平成25年度の15.8%から8.2ポイント上昇している。

「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握

出典「平成26年度　英語教育実施状況調査」



※H24は調査を実施していない。

※H23の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果に基づく。

（参考） 諸外国における外国語教育の状況

出典　文部科学省「平成25年度　諸外国における外国語教育の実施状況調査」

		中国	韓国	台湾	ベトナム	日本
高校における教育目標		卒業時の目標：言語技能等5項目の到達基準「7級」（明確・持続的な学習意識あり等）学年ごとの目標は定めず。	－	「普通高校必修科目「英語」課程綱要において4技能及びそれらの総合的応用能力の到達目標を定める。	卒業時の目標： CEFR　B1 レベル	
初等教育段階における外国語教育の導入時期		2001年 （平成13年）	1997年 （平成9年）	2001年 （平成13年）	2003年 （平成15年）	2011年 （平成23年）
外国語教育の開始学年		小学校 第3学年	小学校 第3学年	小学校 第3学年 ※導入当初は第5学年	小学校 第3学年	小学校 第5学年
各学校段階における外国語教育の授業時数	小学校	週4回以上 ・3・4年は短時間（30分）がメイン ・5・6年は短時間授業と長時間授業（40分）の混合、長時間授業は週2回以上 ※地域差あり	○2008年改定 ・3～4年は週2コマ ・5～6年は週3コマ ※1コマ40分、年間34週 ○改定前（2007年以前）は ・3～4年は週1コマ ・5～6年は週2コマ	週2コマ ※1コマ40分	週2コマ ※1コマ35～45分	週1コマ ※1コマ45分、年間35週
	中学校	週4回以上	1～2年は週3コマ 3年は週4コマ ※1コマ45分、年間34週	週4コマ ※1コマ45分	週3コマ ※1コマ45分	週4コマ ※1コマ50分
	高等学校	週4回以上	1年は週4コマ 2～3年は選択科目単位制 ※1コマ50分、年間34週	週5コマ （必修4，選択1）	週3コマ ※1コマ45分	必履修科目は3単位時間 他は選択科目
到達目標の設定		CAN－DOリストあり 「義務教育英語課程標準（2011年）、「普通高校英語課程標準（2003年）に記載	－	Can-DOリストあり。	国独自のリスト「KNLNNVN」を作成（1、2級～上級5、6級）、2014年3月から開始	

（参考）中国における各学校段階の英語教育の内容

対応学年	級	要求
外国語学校	九級	
高校3学年	八級	普通高校卒業時に要求されるレベル
高校2学年	七級	
高校1学年	六級	
中学3学年	五級	中学3学年終了時に要求されるレベル
中学2学年	四級	
中学1学年	三級	
小学5、6学年	二級	小学校6学年終了時に要求されるレベル
小学3、4学年	一級	

＜八級の達成目標概要＞
強い自負心と自主学習能力がある。身近な話題について、英語スピーカーと自然に交流できる。会話・文章の内容について、評論的な見解を表明できる。連続した、完全な短い文章を書くことができる。言語を使ったさまざまなジャンルの活動を、自ら企画、立案、実施することができる。これには、計画設定・実施、実験や調査の結果発表を含む。インターネット等のさまざまな教育資源を有効利用し、情報を得て処理できる。自主的に学習効果を評価し、有効な英語学習の戦略を立てることができる。言語コミュニケーションの文化的内容と背景を理解し、異国文化に対して、尊重・包容の姿勢を持つ。

＜技能項目の指標目標（八級）＞

級				
技能	リスニング	スピーキング	リーディング	ライティング
目標内容	1、口調による態度の違いを聞き取ることができる。 2、身近な話題についての討論や会話を聞き取り、要点を理解、記憶することができる。 3、簡単な文章の見解をつかむことができる。 4、ラジオ、テレビの英語ニュースのテーマ、大意をほぼ聞き取ることができる。 5、間接的な表現の提案、アドバイスなどを聞き取ることができる。	1、適切な語調とリズムで話すことができる。 2、タスクに沿って話し合い、計画を立てることができる。 3、実験や調査のプロセスと結果を報告できる。 4、準備をした後、一般的な話題について3分間スピーチができる。 5、日常的なやりとりの中で、意見、決断、抗議、苦情などを効果的に言葉で表現できる。 6、外国人の買い物や観光に同行するなどし、一般的な生活内で通訳ができる。	1、それぞれの資料の異なる見解や観点を読み取り、理解できる。 2、異なる文体の特徴をつかむことができる。 3、文章構造を分析し、難解な文や長文の内容を理解できる。 4、教員の助けを借りつつ、平易な文学作品を読解できる。 5、カリキュラムの規定に沿って、電子ブックやインターネット上の情報をつかみ、整理・処理できる。 6、授業の教材のほかに、36万語以上の読書をする。	1、構造化され、理論立った作文を書き、出来事を説明したり、自身の考えや見解を表現したりできる。 2、テキストをもとに、概要を書くことができる。 3、適切な文体を使い、筋の通った文章展開ができる。 4、文章や図表の情報をもとに、短い報告書やレポートを書くことができる。

出典：「諸外国における外国語教育の実施状況調査」（平成22年3月）

（参考）外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠について

○ CEFR （Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment） は， 語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、２０年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。

○ 欧州域内では、国により，CEFRの「共通参照レベル」が，初等教育，中等教育を通じた目標として適用されたり，欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した言語使用者	**C2**	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	**B2**	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	**A2**	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典） ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

高等学校新学習指導要領（平成25年度～）の取組について

平成25年度より，高等学校に第1学年から年次進行で新学習指導要領を導入後，

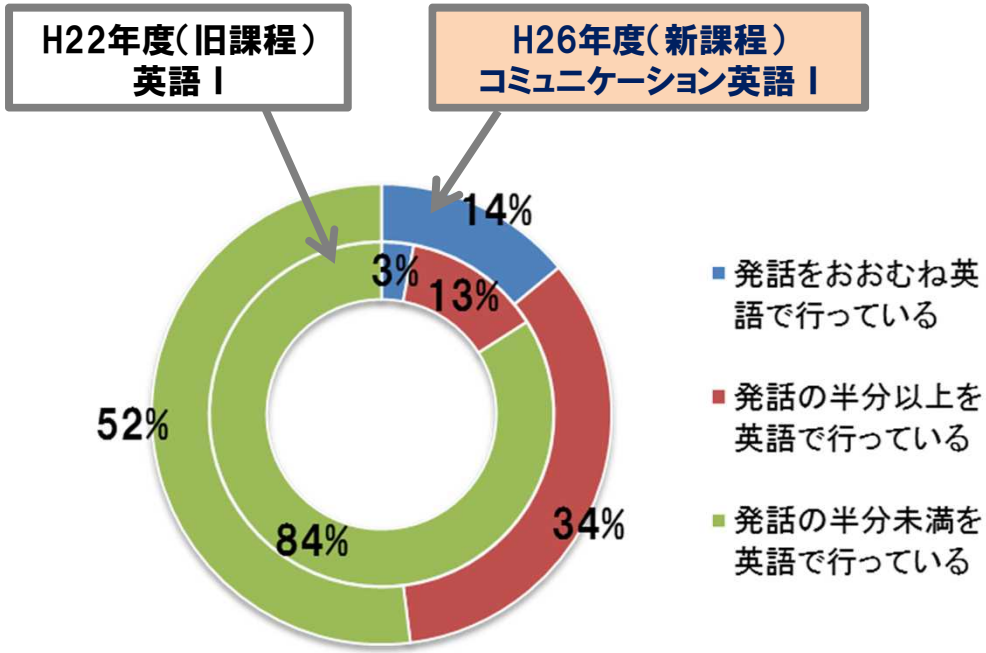
○ 高校教員：必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」について，平成26年度普通科等の授業で「発話をおおむね英語で行っている」、「発話の半分以上を英語で行っている」と答えた教員の割合は合わせて48％（旧課程の平成22年度「英語Ⅰ」は16％）

○ 高校生徒：「コミュニケーション英語Ⅰ」について，平成26年度普通科等の授業における生徒の英語による言語活動時間の割合は「おおむね言語活動を行っている」と「半分以上の時間言語活動を行っている」を合わせて43％

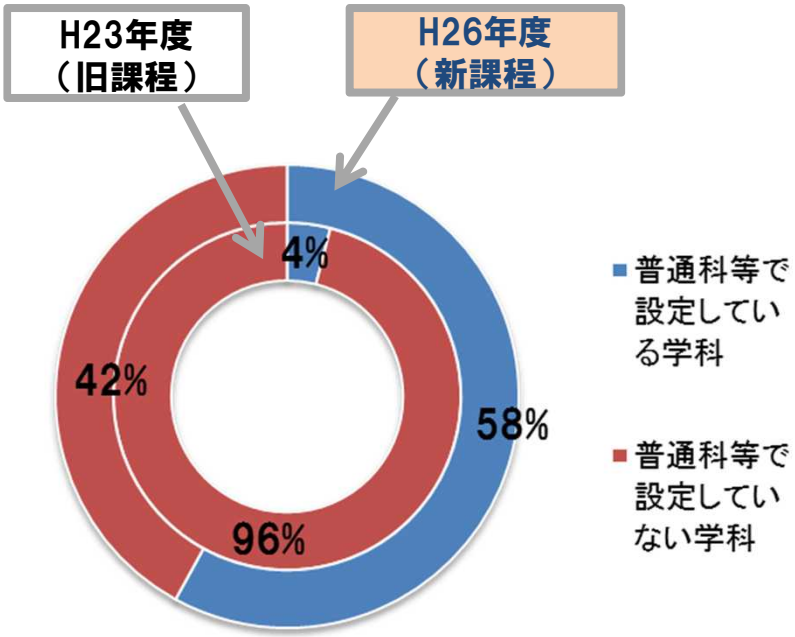
○ 学習到達目標：普通科等において，「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定している学科数の割合は平成26年度58％（旧課程の平成23年度は4％）

など，教員が授業を英語で展開し，生徒の英語による言語活動が授業の中心になってきているとともに，各高等学校において「CAN-DOリスト」の形で明確な学習到達目標を設定しつつある傾向が見られる。

普通科等の授業における英語担当教員の英語使用状況（該当する英語担当教員の割合）



普通科等における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定等状況（該当する学科数の割合）



「平成22年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」、「平成23年度『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」、「平成26年度公立高等学校・中等教育学校（後期課程）における英語教育実施状況調査」

高等学校　早期から新学習指導要領の趣旨の即した授業に取り組んだ学校の成果事例

北海道函館中部高等学校

Ⅰ　学校における教育活動

1. 日常的に「英語で表現する」機会を多く持たせる

→ さまざまな話題について考える，話す内容を持つ，英語で伝える機会の増加

2. 基礎科目「コミュニケーション英語基礎」の履修によって「自分のことを話そうとする態度」を養う

→ 3年間の英語指導を見据えて，言語活動の素地を育成

3. CAN-DOリスト作成で，教師が互いにノウハウを出し合う機会を作る

→ さらに新しい指導のアイディアを創出，共有

4. 教科書「を」教えるのではなく，教科書「で」教えることを重視する

→ 単元の扱い検討し，生徒に合わせた臨機応変な指導を展開

Ⅱ　授業指導の成果

GTEC for STUDENTS(リーディング，リスニング，ライティング試験)の結果

（1年間の伸び全国平均は30～35点）

同校2年の年度比較	1年次		2年次		3年次
2013年度高2	405.8	＋75.6点	481.4		
2012年度高2	407.2	＋69.3点	476.5	＋24.9点	501.4
2011年度高2	408.9	＋38.8点	447.7	＋49.5点	497.2

岩手県立福岡高等学校

Ⅰ　学校における教育活動

1. アウトプット活動を日常的に授業の中で行う

→ 授業に対して受け身でない生徒を養成

2. “使える英語”と“受験英語”の区別をしないコミュニケーション能力の育成

→ 大学でも社会でも活きる英語力を育成

3. 英語による授業を実践する「DASH 70」(生徒・教員ともに授業における英語使用率70%以上を目指す)

→ 生徒のインプット・アウトプットが増量

4. FUKUOKA CAN-DO GRADE(学習到達目標)を開発する

→ 教師・生徒双方にとって，授業の目的が明確化

Ⅱ　授業指導の成果

GTEC for STUDENTS(リーディング，リスニング，ライティング試験)の結果

（1年間の伸び全国平均は30～35点）

同校3年の年度比較	1年次		2年次		3年次
2014年度高3	368.6	＋40.0点	408.6		
2013年度高3	372.3	＋42.4点	414.7	＋42.3点	457.0
2012年度高3			382.8	＋62.5点	445.3

（参考）　岩手県版ＣＡＮ－ＤＯリストにおける特徴

CAN-DOリスト作成による変化

■**授業の目標が明確化**（技能習得型ゴール）
　外国語科の実践が他教科にも好影響

■**定期考査が変化**
　実技テスト（パフォーマンステスト）の増加
（62／64校　2013調査）
　初見の英文を用いた出題が増加

■生徒の英語による**言語活動主体の授業が増加**
　ペア・ワークやグループ・ワークの増加

■発表場面の増加

■英語の授業は英語で

■日常的にペア・ワーク

■ストップウォッチで活動時間を管理

■文法訳読式授業の自然消滅

■授業ディベートの導入

岩手県教育委員会の取組

■県内公立高64校を（24校・24校・16校）に分け、3年計画で全校策定

■CAN-DOリスト作成のための教員研修会開催

■参考としての「県版CAN-DOリスト」の作成

■学校訪問で各校が作成したCAN-DOリストの点検・修正

■「CAN-DOリストに基づく言語活動実践例（DVD付）」の作成

■公開授業の指導案にはCAN - DOリストを添付

CAN-DO List A　（主に大学進学を希望する生徒用）				
2学年				
＜育てたい生徒像＞		外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうと努力する生徒。また、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につけた生徒。	達成度	
＜具体的到達目標＞		1年次までに習得した英語の知識を生かしながら相手の伝えたいことを理解し、適切な表現を使いながら自分の意見を伝えることができる。■外部試験による到達目標目安　：（例）英検準2級合格　90%　GTEC　Grade4　90%		
技能	Listening	事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。		
		自然なスピードで話される120～140語程度の英文を、数回聞けば、その使用状況や概要をおおむね理解できる。		
		教室内で用いられる英語は、自然なスピードで話されてもほぼ理解でき、即座に行動に移すことができる。		
	Reading	説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができる。		
		パラグラフの概要を短時間で理解することができるとともに、パラグラフ相互の関係も理解することができる。（目安：110WPM）		
		やや長めの物語やエッセイを辞書を頻繁に引かなくても、ある程度未知語を推測しながら全体を読み通し、あらすじや要点を理解することができる。		
		説明文や評論などの論理的な英文を、文章の構成や筆者の主張、図表との関連に注意しながら内容を適切に理解できる。		

高等学校　海外の教科書(例)

オックスフォード大学出版
　基本の教科書(「コミュニケーション１」)と「発表」、「討論」、「交渉」などの言語活動に対応した多様な教科書

討論・交渉

発表

基本的な教科書

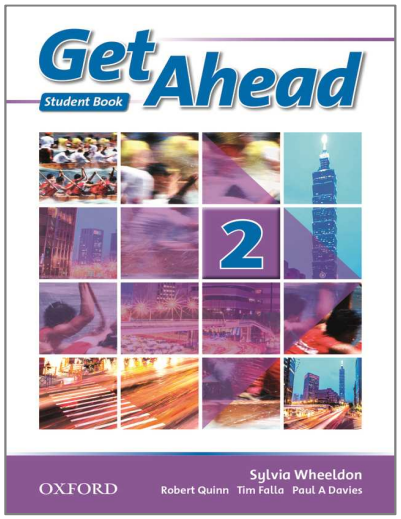
基本となる教科書から「発表、討論、交渉」などの言語活動のための教科書・教材が豊富

単元ごとの達成目標・学習プロセスが可視化されており、効果的な学習が可能

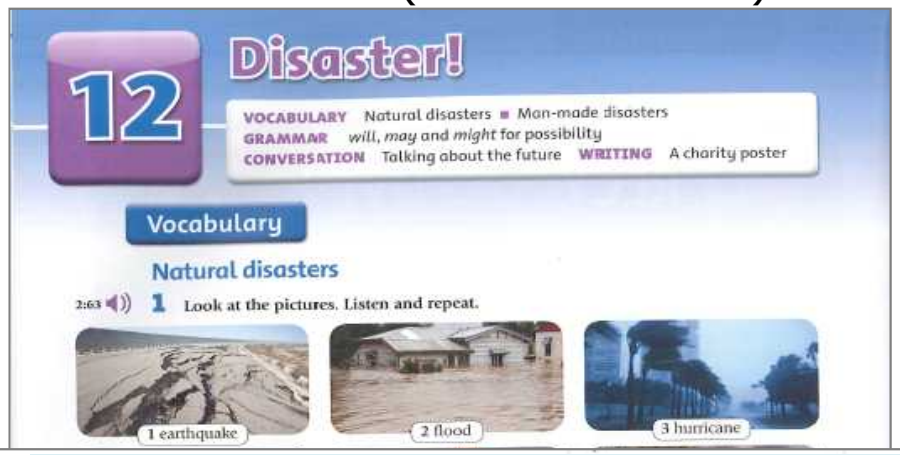
教科書にＣＥＦＲレベルの対応が明示されており、学習者のレベルにあわせた学習活動が可能

©Oxford University Press 2015

コミュニケーション1　例：Get Ahead シリーズ (全3レベル 1～3)



Unitにおける授業内容概要



レベル 2の CEFRレベル →A1-A2

各Unitにおける達成目標（カリキュラム）

Contents

Unit	Vocabulary	Conversation	Grammar	Skills
Around the world page 4	Countries, Cities, Large numbers Vocabulary Builder Large numbers			
1 This is fun! page 6	Fun activities Fun places Vocabulary Builder Sports with do, play, go	What do you do in your free time? I often play basketball. What about you? Discussing likes and dislikes What sports do you like playing? I'm crazy about volleyball. Pronunciation /oo/	Simple present: affirmative, negative and questions Verbs + -ing form Grammar Builder Simple present: adverbs of frequency can / can't	Reading A fun place to go
2 Out and about page 12	Types of music Vacation plans Vocabulary Builder Meeting friends	What are you doing right now? What are you up to? That sounds fun. Making arrangements What are you doing this weekend? I'm going to the movies. Do you want to come? Pronunciation Silent letters	Present continuous: affirmative, negative and questions Present continuous with future meaning	Reading A music festival
3 Mother Nature page 18	Geographical features Animals Vocabulary Builder Describing animals Pronunciation /a/	Quiz What do you know about the world? Agreeing and disagreeing I think cats are the best pets. In my opinion, dogs are better.	Comparative and superlative adjectives	Reading A national park
4 TV and movies page 24	TV shows Movies Vocabulary Builder Extreme adjectives	What did you watch last night? Did you see that documentary on TV last night? It was really exciting. Expressing disbelief Guess what happened to me. You're kidding! Pronunciation /ea/	Simple past: affirmative, negative and questions Grammar Builder Simple past: negative and irregular verbs Pronouns	Writing A movie review Writing skills Pronouns
Review Units 1–4 page 30				
5 Happy endings? page 32	Describing feelings Prepositions of movement Vocabulary Builder -ed / -ing adjectives	What happened to you? Why didn't you play in the basketball game? I hurt my hand. I was really upset about it. Expressing sympathy Did you have a good weekend? No, it wasn't great, actually. That's too bad! Pronunciation /h/	could / couldn't: affirmative, negative and questions	Reading Martin Luther King
6 Travel tales page 38	Transportation Verbs of movement Vocabulary Builder Making adverbs from adjectives	How do you get to school? I usually walk. Sometimes I take the subway. At the train station Can I have a ticket to Boston, please? What time is the next train? Pronunciation /tr/	Past continuous: affirmative, negative and interrogative Grammar Builder Simple present for timetables	Reading A trip to school
7 What's cooking? page 44	Food Verbs: preparing food Vocabulary Builder Quantities, preparing food	Quiz Food matters In a grocery store Can I help you? I'm looking for some mangoes. Pronunciation Intonation	Countable and uncountable nouns some / any and How much / How many ...? Grammar Builder Imperatives	Reading Healthy eating
8 At home page 50	Housework do, have, make Vocabulary Builder do, have, make	Do you wash the dishes? Who does the housework in your house? My mom usually does it. Giving advice What's wrong? Maybe you should ... Pronunciation /j/	have to / can't for rules Grammar Builder should / shouldn't for advice so that	Writing A description of a bedroom Writing skills so that
Review Units 5–8 page 56				
9 Danger! page 58	Adventure sports Opposite adjectives Vocabulary Builder Synonyms and antonyms	Quiz Living dangerously Talking about experiences Have you ever tried ...? Wow! When did you do that? Pronunciation Weak forms	Present perfect with ever / never: affirmative, negative and questions Grammar Builder Present perfect: been / gone	Reading Extreme sports
10 High tech page 64	High-tech gadgets Phrasal verbs Vocabulary Builder Phrasal verbs with come and go	Is it new? I use my tablet all the time. I like watching movies on it. In an electronics store How much is this one? It's a great deal. It's only $299. If you find the same TV at a lower price, we'll refund the difference. Pronunciation Abbreviations	will for predictions First conditional Grammar Builder Infinitive of purpose	Reading A charity brochure
11 Material world page 70	Materials Parts of a building Vocabulary Builder Describing objects	Quiz Recycle it! Describing a lost object I can't find my pencil case. What does it look like? It's made of plastic. Pronunciation Linking sounds	Simple present passive: affirmative, negative and questions	Reading An unusual architect
12 Disaster! page 76	Natural disasters Man-made disasters Vocabulary Builder Compound nouns	Did you see the news? Wasn't it awful? Did you see the videos? Yes, it looked really scary. Talking about the future Are you worried about global warming? I think it will be a big problem. Pronunciation Stress patterns	will, may and might for possibility: affirmative and negative	Writing A charity poster Writing skills Poster presentation
Review Units 9–12 page 82				

Grammar Builder page 84 Vocabulary Builder page 96 Irregular verbs page 104

©Oxford University Press 2015

英語科目の今後の在り方について（検討素案）

現行科目

コミュニケーション英語基礎

コミュニケーション英語Ⅰ（必履修）

コミュニケーション英語Ⅱ

コミュニケーション英語Ⅲ

英語表現Ⅰ

英語表現Ⅱ

英語会話

課　題

・生徒の英語力について、４技能全般，特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
・英語の学習意欲に課題
・言語活動，特に，統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
・グローバル時代において，英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

資質・能力

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う

改訂の方向性（案）

科目の在り方

英語による「思考力・判断力・表現力を高める見直し

４技能統合型（必履修科目を含む）の科目を核とする科目

・４技能総合型
・複数の技能を統合させた言語活動が中心

世界標準になっているCEFRを参考に，指標形式での目標設定を検討

発信能力の育成をさらに強化する科目

・スピーチ、プレゼンテーション、ディベートやディスカッションなど、統合型言語活動が中心

高度化・多様化

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

高等学校の英語教育の強化のための養成・研修の改善・充実策

次期指導要領改訂（３２年度）に向けて、今後５年間（２６～３０年度）に必要な指導者を確保するための教員養成・研修の在り方について、以下の施策を推進。

１．　英語教育強化地域拠点事業　（27年度予算：約９千万円）

〇小学校英語の早期化・教科化、中・高等学校の目標の高度化等、小・中・高を通じた先進的な取組を支援。（英語教育強化地域拠点：18地域→25地域）

〇研究成果を今後の教育課程の検討に反映。

２．　教員の英語指導力向上　（27年度予算：約３千万円）

（１）教員の指導力向上

〇「英語教育推進リーダー」養成を通じた研修

・国が毎年１００名ずつ「英語教育推進リーダー」を養成し、国のリーダーが地域で２０名程度以上の教員に対して研修を行うことにより、最終的には５年間で全英語担当教員（約3万人）に教員の指導力の改革を行う。

・研修プログラムや教材（テキスト・ＤＶＤ）は、ブリティッシュ・カウンシルに委託し、国と協働開発。

〇都道府県･政令指定都市教育委員会と**外部専門機関**(**国内外の公的機関、大学**等)が連携して実施する英語指導力向上事業を支援

※域内の「**英語教育改善プラン**」の策定、明確な目標設定及び**目標管理**

（２）教員養成・研修のためのコア・カリキュラム開発等

〇教職課程のためのコア・カリキュラムの開発・普及（27年度～）

地域における具体的な取組事例・イメージ

国の支援（26年度以降、開始）

『英語教育強化地域拠点事業』
（研究開発課題例）
・小・中・高を通じた指標形式の目標設定
・小学校英語の早期化・教科化
・中・高の 高度化

『外部専門機関と連携した英語指導力向上事業』
ブリティッシュ・カウンシルと連携

① 「英語教育推進リーダー」の養成
② 教育委員会と大学等との連携による新たな研修
※「英語教育推進リーダー」を講師とした研修

県教育委員会の目標設定・管理（高校の例）

	H25年	H26年		H27年		H28年		H29年	
	現 状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
学習到達目標の設定（CAN-DOリスト）	41%	100%	100%	100%		100%		100%	
教員の授業における英語使用状況	55%	58%	60%	70%		75%		80%	
教員の英語力	55%	60%	66%	75%		78%		80%	

第2期教育振興基本計画（25～29年度）
※高校卒業時の英語力の目標（）
※英語教員の英語力の目標（英検準1級、TOEFL IBT80点、TOEIC730点以上）を達成した教員割合（高校：75%）

支援

県における「英語教育改善プラン」の研修イメージ

『グローバル化対応教員育成事業』
国の②の事業を活用して以下の事業を実施。

効果

検証・改善

◆ 英語教師の英語力向上講座
・指導力向上講座
・外部試験を活用した英語力向上講座

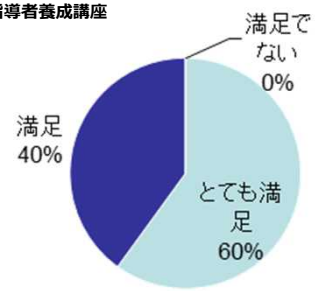
◆ 英語授業指導向上講座
・ワークショップ、公開授業を通じた改善のための研究、実践交流

◆ スピーチ・ディベート指導者養成講座
・スピーチに関する指導法、評価方法
・ディベートを通して身につく力（論理的思考力、英語力など）、ディベート大会実施による活動（実施と評価）

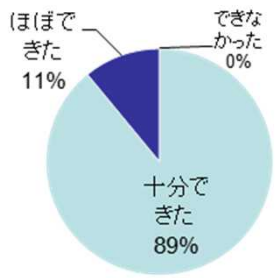
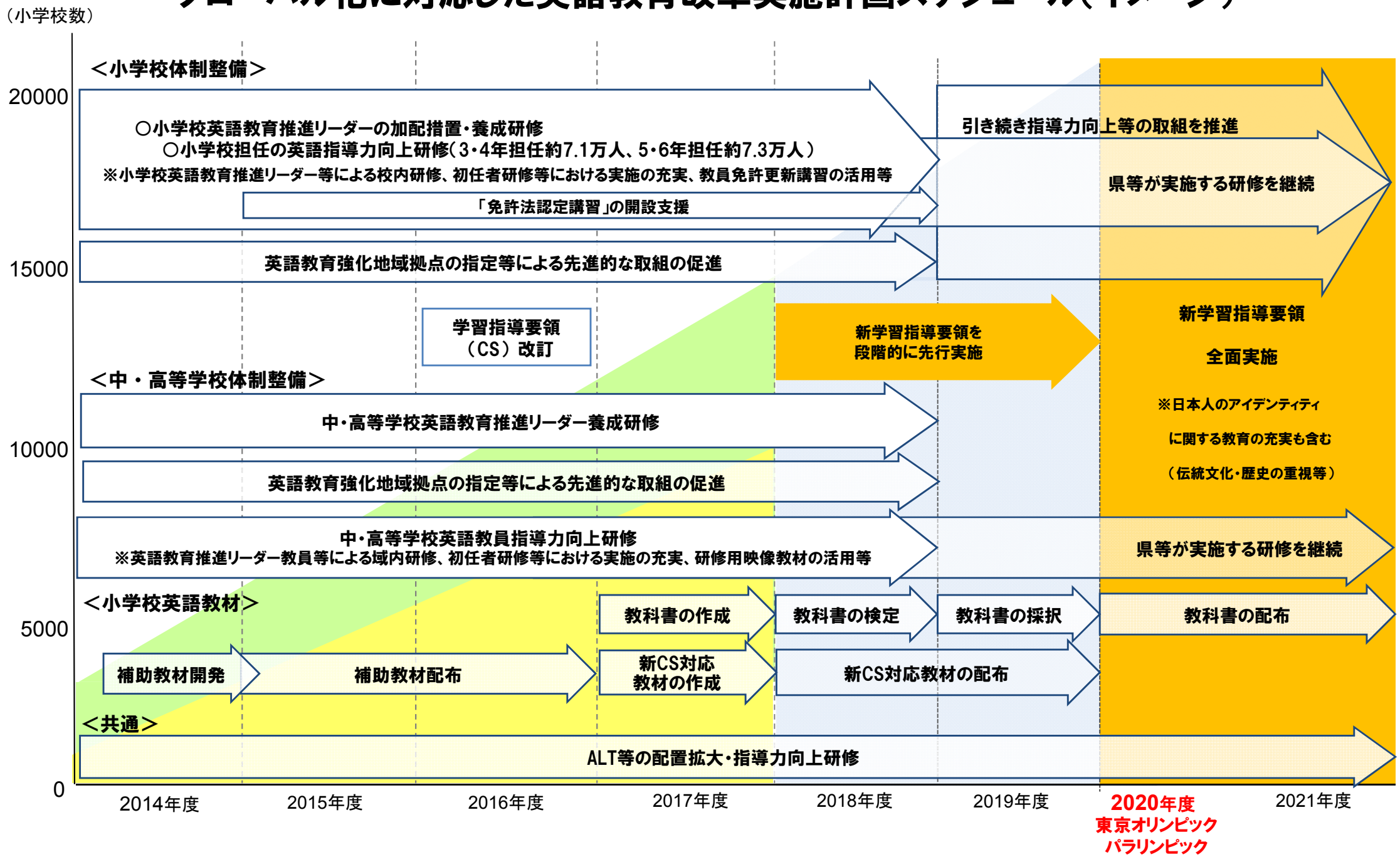
◆外国語指導助手（ALT）の指導力向上研修

[研修後の声]
- 全て英語での研修を通して意欲が高まった。
- 模擬授業や研修で得たアイデアや教材を持ち帰り校内で研修し学校として取組みたい。
- グループワークの方法を学び、是非アイデアを取り入れて授業を行ってみたい。
- ディベートで発揮する発信力をつける指導を授業で実践してみたい。
- 外部検定試験を定期的に受験し、自分自身の英語力向上に努めていきたい。

スピーチ・ディベート指導者養成講座



英語教師の英語力向上講座



グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール（イメージ）